

# 特別支援学校教員が授業内で行う発達支持的生徒指導

## 【本研究の目的】

生徒指導提要（2022）では、生徒指導は学校の教育目標を達成するうえで重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意義を持つものである。その中でも、発達支持的生徒指導は特定の課題を意識することなく、すべての児童生徒を対象に学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤になるものとされている。そこで、本研究の目的を附属特別支援学校において教員が授業で生徒に対してどのような発達支持的生徒指導を実際に行っているのかを明らかにすることとする。

## 【方法】

1. 期間 令和6年10月から令和6年11月
2. 対象 高等部の教員6名の授業計8時間分での授業内におけるMTの発言や生徒との関わりを対象とした。
3. 方法 報告者がSTとして入った授業においてMTが生徒に対して行っていた発達支持的生徒指導を観察し、記録に取り分類した。

## 【結果】

本研究では、高等部の6名の教員8時間分の授業にて、29回の発達支持的生徒指導が行われていたことが明らかになった。さらに生徒指導提要で発達支持的生徒指導として大切にされている児童生徒へのあいさつ、声かけ、励まし、賞賛、対話、授業や行事を通じた個と集団への働きかけの6つのカテゴリに整理することにより、全てのカテゴリにおいて附属特別支援学校の実際の授業の中で行われていることが確認できた。

生徒指導提要で求められる発達支持的生徒指導の働きかけ	授業内での実際の働きかけ	生徒指導提要で求められる発達支持的生徒指導の働きかけ	授業内での実際の働きかけ
児童生徒への挨拶	名前を呼んでのあいさつ	対話	生徒発信の発言に関するやりとり
	名前を呼んでのあいさつ		よい発言に関するレスポンス
	名前を呼んでのあいさつ		個人の疑問を全体に共有する
声かけ	よいところはすぐに声をかける		他の人の発表を聞くように声をかける
	全体の中での個別に対する声かけ		規範を守らない生徒への声かけ
	生徒の変化への気付き		生徒とのポジティブなやり取り
励まし	つまづきに対する個別支援		生徒の発言から話のやり取りをする
	発表に対するレスポンス		生徒の発言から意見・意思を汲み取る
賞賛	正解に対してすぐ褒める		生徒の質問を広げる
	本時の説明を受けてできている事を見つける		質問に対するコミュニケーション
	具体的なフィードバック		導入部分での授業内容の提示
	正解時の称賛		自分を出せる安心な環境作り
	発表したことに対する称賛	人前で発表する機会を設ける	
	出来たことに対する称賛	授業や行事等を通じた個と集団への働きかけ	答えられるまで待つ
			得意分野における発表機会を設ける
			各自の進捗具合の確認
			指示が完了するまで待つ時間を作る

## 【考察】

今回の結果から、知的障がい教育を行う附属特別支援学校の授業の中でも29項目の発達支持的生徒指導が実際に行われていることが示された。これらの項目は特別支援学校でも、教員が授業を行う際に、発達支持的生徒指導の観点からも必要な項目であると考えられる。特別支援学校の教員として、生徒とともに成長していくためにもまずは授業の中で生徒の発言や行動をよく観察して生徒の変化に気付くことこそが発達支持的生徒指導を行う上で大切なきっかけになると思われる。

今後は、今回の結果を基にチェックリストを作成し、特別支援学校の授業において発達支持的生徒指導を充実させていくことが課題である。また、今回の結果を特別支援学校の教員が授業の中で生徒指導の充実を図っていくための一助となるように、研究を進めていく。